

お年寄りが教えてくれた、場の大切さ。

よりあいつうしん

18号

発行元

宅老所よりあい
つうしん課
〒814-0104
福岡市城南区別府7丁目
9-22
☎092-845-0707

場づくりを、考える。 場づくりに、立ち返る。

「夕方の過ごし方について考えてみませんか」。月に1度開いている2階のユニット会議で、リーダーから出た言葉だった。この問いかけに「はっ」とした職員は、決して私だけではなかったと思う。

入居施設の夕方の時間は慌ただしい。食事の前にトイレへ行きたい方を案内し、食事の準備や配膳、自分で食事を食べる手が伝い等々……。早出の職員が帰宅していき、限りある人数の中で、これらのことを行わなければならない。しかも、夕方の時間というのは、お年寄りの不安をより一層募らせていく。「家に帰って晩御飯の支度をしなくては」。「私はいつまでここに居るのだろう」。

をしっかりと見て。ここにいるよ。という思いを乗せたメッセージだ。なんとかしてあげたい。しかし、夕方の時間、バタバタと動く中で、しっかりと向き合うことを疎かにしてしまっていたのだろうか。とりあえず、夕食の準備を進めよう。食事が始まれば、その場もなんとか収まるはずだ。その時は仕方がないという、その場のしごきの対応だったと思う。その結果、夕食の時間は徐々に早まっていき、それが定着していつかまたの縮めくり、テーブルを囲んでのお年寄り達との夕食前のひと時は、以前にもましてバタバタとしたものになってしまった。

介護の現場において、その場のしごきの対応というものは、決して悪いことではないような気がしている。それは、個別のニーズを満たす上で必要などきもあるからだ。しかし、それが積み重なり、習慣化し、なにもなく職員のペースで生活が作り上げられてしまっている。そこにお年寄りという「存在」がないのだ。そんなことよりも、もっともっと大前提に、大事にしなくてはいけないことがあるはずだ。

お年寄りの隣にいて、お年寄りから発信される様々なサインを、感じ取る。そして、お年寄りとして「今」を、「その場」を楽しむのだ。今日も日が暮れていく。黄昏時……。お年寄りの隣に、どっしりと腰を据える。さあ、今からどんなことが起きるのだろうか。どんな会話が生まれるのだろうか。そんな思いを馳せながら、「今」を楽しんでいる私がいるのだ。

よりあいの森 鐘ヶ江 亮一

朝の申し送り、夜勤者が、疲労を隠せない顔で夜の様子を話す。その横で、今さっき寝たというアキ子さんが、スヤスヤとソファで眠っている。この光景がいつもの光景になった。

「私はじつとじつとのはイヤ、働かなくちゃダメ！」「頑張らなくちゃダメよ！」家業の印刷会社を旦那さんと切り盛りしてきたアキ子さんは、とにかく、じつとじつとくのが性に合わないみたいだ。昨年12月に入所されたアキ子さんはピンクのニット帽をかぶり、車椅子に乗って1階のぼんざいユニットにやってこられた。

以前の施設では薬によって、徘徊などといったいわゆる行動障害を抑制されていた。日中もぼっしとしておられ、よだれを垂らし、目を開けていることもほとんどなかったらしい。いよいよ、精神科へ転院となる直前で、よりあいの森に入所が決まったのだ。

入所の日はアキ子さんが大好きなシュークリームでタワーを作りデコレーションして、歓迎会を開いた。シュークリームを見た瞬間「食べていいの？」と微笑みながら手を伸ばし、口いっぱい頬張り、「美味しい」と言われた姿が印象的だった。

「印刷組合に行ってきた。止めようものなら、手を振り払いイヤ、私は何も悪いことしてない！」とヒートアップする。アキ子さんが納得するまで付き合わざるをえない。今まで通りにはいられない。皆で相談し、考えて、集いの場をつくる。一対一では太刀打ちできない職員一丸・お年寄りの力を借りなければ、アキ子さんに蹴散らされる。だ

とアキ子さんが話しかける。「お父さん、ご飯を食べなきゃだめ。」と世話を焼く。眠っているアキ子さんにお茶を飲ませ、ご飯を口に運ぶ。タカ子さんは肩間にしわを寄せ「ふん」と首を振る。アキ子さんは「お父さん具合が悪いの？」と心配する。

「お父さん」と話しかける。「お父さん帰りませよ。お父さん。」とアキ子さん。「帰るとね。」と食事を途中で止め、アキ子さんに付き合うミヤ子さん。一生懸命椅子から立ち上がり、廊下の手すりに右手をかけ、左手はアキ子さんに引っ張られ、必死に付いて行く。しかし、1mも歩かないうちに床にへたり込んでしまった。アキ子さんはそれでも諦めない。「お父さん帰りませよ。」と床にへたり込んでしまったミヤ子さんを両手で引っ張る。ミヤ子さんは笑いをこらえていた。



大好物のシュークリームを食べるアキ子さん。

よりあいの森 高瀬 クニ子 稲田 学

ヨリアイマンガ 「ボブ」



作：宅老所よりあい

よりあい湯けむり珍事件



「ああ、お風呂にでもいこーかね」
私の隣でそう呟いたおばあさんは、なかなかお風呂に入ることをごまかさない方らしい。というの、普段2階に勤務している私は、1階のショールームのことであまり知らないのだった。

「お風呂はまだ溜まらんとね？」
「もう少し時間がかかりそうですね」
「もう遅いねー」
「お風呂はもう溜まらんとね？」
「もう少し時間がかかりそうですね」
「もう遅いねー」
「お風呂はもう溜まらんとね？」
「もう少し時間がかかりそうですね」
「もう遅いねー」

「よし」と覚悟を決めて、先に入ることになった。
「あ、お風呂にでもいこーかね」
「よし」と覚悟を決めて、先に入ることになった。
「あ、お風呂にでもいこーかね」
「よし」と覚悟を決めて、先に入ることになった。

よりあいの森
鐘ヶ江 亮一

伊藤さん家のコロッケレシピ

じゃがいも
合いびき肉
玉ねぎ
コンソメ
塩コショウ
ナツメグ
練乳

味付けに練乳を入れるのが、伊藤さん家のコロッケのポイント。油で揚げる前に、少し寝かせておくと、より美味しく頂けますよ！！



美味しさの秘密はやはり愛情でした！



職員「田口さんは料理上手な女性はどうですか？」
田口「それはよかったですね。」
職員「私、料理上手ですよ。」
田口「あなたもよかったですね。」
職員「じゃー、今日の晩御飯も、いっぱい愛情込めて作りますね。」
田口「ありがと！楽しみしときます！」

突撃！！森の晩御飯



よりあいの森のご飯は、とにかく美味しい！しかも、そのメニューの中には、お年寄りが昔家庭で作っていた料理が振舞われること。今回は、その美味しさの秘密と、厨房の様子を伝えるために、お年寄りがインタビュアーに行ってみました。

職員「あら、田口さんこんにちは。どうしたんですか、この大きなしゃもじは？」
田口「これ？あー、そこで拾ってきた。ししし……」
(笑)



編集後記

「平成」から「令和」へと元号が変わり2か月が過ぎようとしています。元号へ込められた思いは様々ですが、時代が変わっても、よりあいで過ごすお年寄りのゆっくりにした時間を、これからも変わらぬ大切にしていきたいと思っています。
よりあいが変わらず大切にしてきたものの1つが、今回のテーマで取り上げた「場づくり」というものです。
大切なものがあるという事は、人は、振り返ったり、立ち返ったりすることができると思っています。悩んだとき、行き詰ったとき、職員みんながこのことを確認しながら、前へと進んで行きたいと思っています。そして、その成長のきっかけをくれるのは、いつもお年寄りの存在だなど、改めて感じているところです。
つうしん課の「場」にも新たに2人の職員が加わりました。宅老所よりあいの堀さん、第2宅老所よりあいの堤さんです。次号からはさらに宅老所の様子も盛りだくさんになること間違いなし！2人の活躍にも、こうご期待ください。
それでは、今回も最後まで読んでいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願致します。

鐘ヶ江 亮一